おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ー病院に行くこと　就学前 編ー　　ＮＯ．66

毎年、秋になると、子どもの育ちに関して、発達の専門病院の受診について相談を受けることが多くなります。就学や就園に際して話題になることが多くなるからだと思います。放デイを利用しているご家庭と、進学などに向けての受診や検査について話すことが多くなるのもこの時期です。子ども一人ひとり違いますし、ご家庭の思いもそれぞれですのでデリケートな話題です。いろいろな考え方があると思います。なので、これまで“おやつのじかん”では、あまり取り上げてきませんでしたが、日常の話題のひとつですので、あえてテーマにしてみました。ひとつの考え方として参考にしてください。今月は、就学前の子どもの病院受診についてお話します。

まず、いちばん大切なこと。「病院に行って子どもの発達に関する診断を受けなければ、支援が始まらないのか？」というところですが、そんなことはありません。大切なことは、“早めに気付き適切な『手立て』をしていくこと”です。ことばや身体の育ちについて気になることがあったら、まず相談しやすい場所に連絡し、地域で育ちの相談をできる場所を教えてもらい、そこで我が子の姿を『見立て』てもらい、具体的な『手立て』を考えていくことから始めるのでよいと思います。ご家庭での関わりに活かせたり、今通っているところでプラスアルファの対応がなされたりすればその子に応じた支援は一歩進んだことになります。病院を受診することに躊躇があって当然です。でも、そこを乗り越えなければ支援が始まらないわけではありません。体調を崩し、息も絶え絶えならば、すぐに病院に連れていく必要がありますが、発達に関する受診は、ご家族の心の準備がなされてから、ご家族が決めていくことだと思います。誰かに行けと言われていくところではありません。「どうして受診されたのですか？」とドクターに訊ねられたときに、動機をご自分の言葉で伝えられるなら、そのときが好ましい時期だと思います。但し、あんずのような児童発達支援事業や他の福祉サービスを利用する場合、発達に関する診断が必要な地域もあります。

次に、ある程度、我が子の『見立て』もでき、今利用している先で、好ましい『手立て』がなされているような場合です。「この子の育ちをより整理して考えたい」「ドクターの話や診断を家族内での共通理解の糸口にしたい」といった思いが湧いてきたら、発達の専門病院への受診が、先々を見据えていく上で、大いに活かされるかもしれません。それでもいろいろな思いはあるはずです。「今だな」と整理がついたら GO だと思います。療育手帳の取得についても同様です。

幼稚園や保育園を利用する際、支援が必要な子への対応に、加配の職員を配置できる制度があります。クラス担任をもう一人増やすほどのものではありませんが、無理のない集団生活を過ごしていくためには有効な手段のひとつです。その制度を活用するために、発達に関する診断や療育手帳等を持っていることが要件になることがあります。いろいろな思いはあるはずです。話し合っていくことが大切ですね。

発達に関する病院受診を誰かに勧められたり、ご自身の中でも、受診するかどうかの迷いや怖さがあったりしたら、是非、声をかけてください。“どう思う？”から始めましょう。先送りもひとつの選択。決していい加減な決断ではありませんよ。次回は、就学後 編です。（R3．１１）K